

2017年度

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

## 目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領	・ ・ 3
専門ゼミナール選択指導について	・ ・ ・ ・ ・ 4
2017年度専門ゼミナールI一覧表	・ ・ ・ ・ ・ 6
2017年度専門ゼミナールI概要	・ ・ ・ ・ ・ 8
専門ゼミナール志望調査票	・ ・ ・ ・ ・ [別配付]

# 国際学部

## 専門ゼミナール選択オリエンテーション要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションを次の要領で開催します。

○日時： 2016（平成28）年9月16日（金）13:00～16:30

○場所： 6401教室

○内容： 国際学部の現2年生に、来年度から履修する専門ゼミナールの内容や選択方法について説明します。

○当日の予定

13:00～16:30 国際学部全教員ゼミ紹介  
+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

### \*スケジュール

志望調査	志望調査票 配布	研究室訪問・ ゼミ見学等期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
期日	9/16(金)	9/16(金)～ 10/21(金)	10/21(金) 16:40 まで	11/16(水) 16:40 まで	12/2(金) 16:40 まで

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】  
—2017 年度専門ゼミナール選択指導について—

2016/9/16

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（9 名）、最大定員（最も大きい場合で 19 名）**を定めます。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生諸君は、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) **第 1 志望で 1 名以上の志望者があった場合にはゼミを開講します。**ただし、その場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者ゼロの専門ゼミナールについては非開講となります。
- (5) **1 年次の領域選択時のアナウンスに則り、専門ゼミ選択は所属学科・領域にかかわらず、原則として自由に選択することができます。**（open-market operations の原則）皆さん方が志向する専門領域によっては、他学科所属の先生方のゼミが適している場合が十分に考えられますので、web 情報を十分に精査してください。ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となり、ゼミを指導していく上で目標が達成されない恐れがあるといった理由がある場合に限り、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を web 情報で公開のうえ、教員からオリエンテーションでも説明をします。

2. 専門ゼミ選択指導のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) **各専門ゼミに関する情報を 9 月 9 日（金）より web ペースで公開します。**皆さんはそれを閲覧し、確認しておいてください。
- (2) **専門ゼミオリエンテーションを 9 月 16 日（金）に実施します。**【6401 教室予定】OT では全てのゼミ紹介を聴いてください。途中退出は禁止です。OT の最後に「専門ゼミ志望調査票[第 1 志望]」を配布するとともに、教務委員会よりスケジュール、諸注意を伝達します。

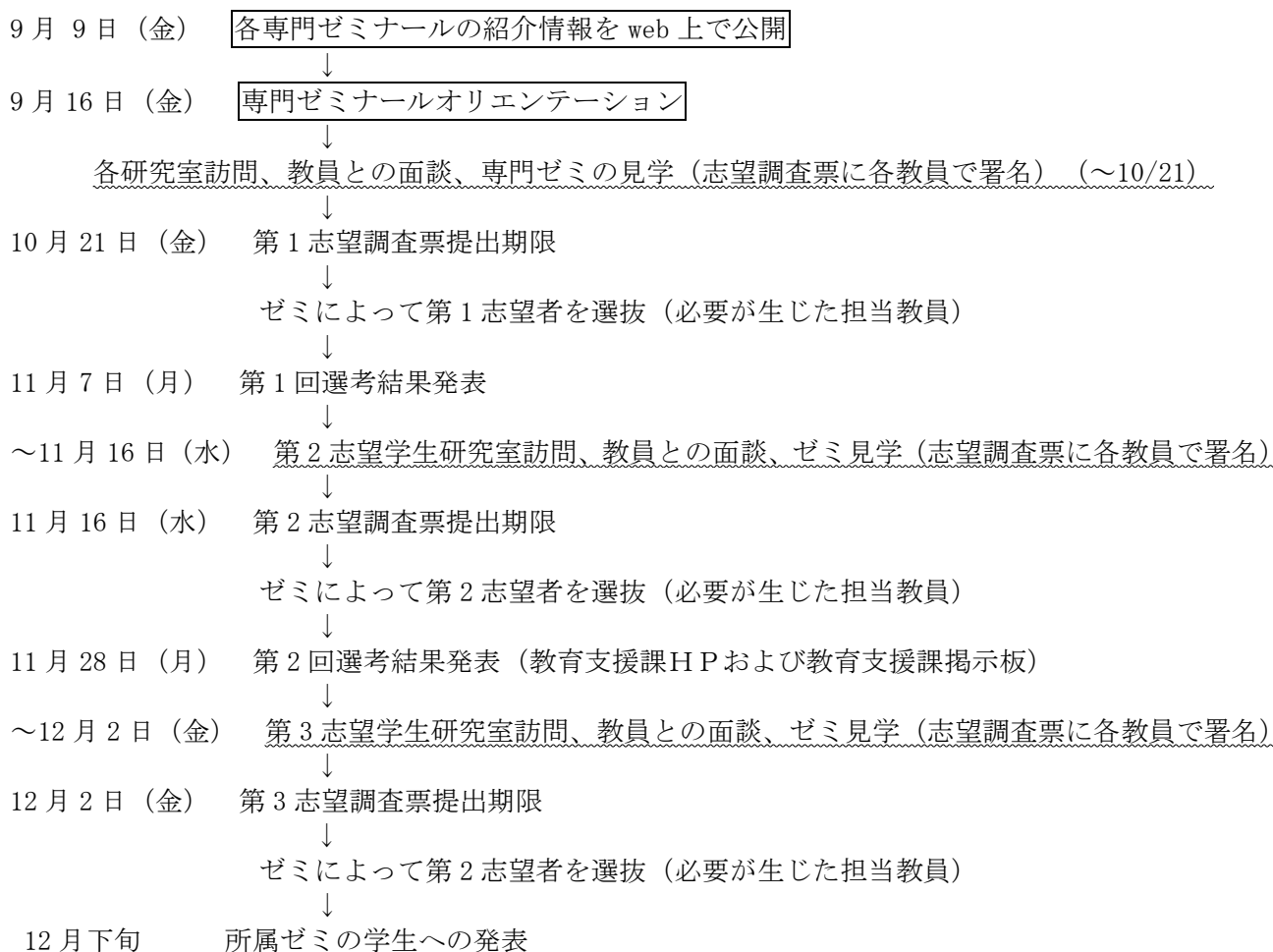
<当日の予定> 午後：13：00～16：30 国際学部全教員ゼミ紹介

+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

- (3) 選択指導のための時間を長く取り、複数の研究室訪問、ゼミ見学などが出来るようにスケジュールを設定しています。皆さんは、志望調査票に所属を志望する担当教員からのサインをもらった上で、10 月 21 日（金）までに調査票を教育支援課まで提出してください。
- (4) 学生諸君は (3) の期間中、志望する専門ゼミの見学、研究室の訪問などを積極的に行い、先生方と話し合うなどして情報をさらに集め、志望ゼミを選択するように努めてください。その際、訪問した研究室の教員、所属を志望する教員からのサインをもらってください。特に**第 1 志望ゼミの教員のサインが無い調査票は無効となりますので注意してください。**当該の先生が長期

- 不在の場合には各学科長（国際理解学科：塩沢先生、国際観光学科：小島先生）、もしくは教務委員長（山脇）まで相談に来てください。
- (5) その他、疑問等がある場合には教育支援課窓口、あるいは山脇先生まで相談に来てください。

<参考> 専門ゼミ選択指導のスケジュール



# 専門ゼミナール I 一覧

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入上限	研究室	ページ
1	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「児童虐待」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	10名	6213	8
2	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成、コミュニケーション能力育成のための英語指導法	英語教職課程の学生を主な対象とするため、教職科目全般	10名	6309	9
3	井門 隆夫	観光	宿泊業や地域の課題解決	特になし	17名	—	10
4	生田 祐子	理解	平和を創り、世界へつながるコミュニケーション	英語コミュニケーション論、英語教職、国際協力、国際理解の関連科目	10名	6407	11
5	井上 由佳	観光	「知と文化でおもてなし」-文化施設で人々と地域をつなぐ	「交流文化論(A,B)」「文化政策論」「博物館教育論」	10名	6308	12
6	奥田 孝晴	理解	「国際学の旅」を続ける:国際学の諸課題、アジアと日本の過去/現在/未来、第三世界論、飢えや貧困の研究、核と市民社会、アジア経済など	特になし(シラバス参照)	12名	6406	13
7	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズム —宝探しから始まる—	「エコツーリズム論(必須)」「観光資源論」「地域プロジェクト演習」	15名	6307	14
8	金井 恵理可	理解	憲法・行政法・地方自治論・在日外国人の人権・子どもの貧困	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない)	10名	6418	15
9	北野 マグダ	理解	Culture in Media	「ESP F」 English writing course English discussion and debate courses	13名	6412	16
10	小島 克巳	観光	交通事業・交通政策研究 ～自由化時代における交通事業の役割と交通政策のあり方～	「交通事業論」「エアラインビジネス論」「エアラインサービス論」	13名	6317	17
11	齊藤 功高	理解	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—	「法学入門」「国際理解と法」	9名	6216	18
12	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した英語コミュニケーション力養成	「英語とメディア」「英語オールラウンド・コミュニケーション論」「英語学概論」	12名	6315	19
13	菅原 周一	観光	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる観光業(ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業、航空業等)を含むいろいろな企業群に関する価値向上に関する調査・研究	特になし	10名	6415	20
14	杉山 富士雄	観光	飲食企業の競争戦略と日本の農業・漁業	「経済学」「経営学」「法学」など社会科学系の科目	9名	6212	21
15	鈴木 正明	観光	企業の経営戦略、ソーシャルビジネス	「国際観光と起業(起業論)」	12名	6312	22

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目	受入 上限	研究室	ページ
16	高井 典子	観光	トラベル・ビジネス 観光行動 インバウンド観光	「国際観光論」「トラベル・ビジネス論」 「旅行法規」	15名	6310	23
17	千葉 克裕	理解	英語教育学 第2言語習得理論 応用言語学	言語学、英語学など英語教職課程に必要な諸科目、心理学、統計学など	9名	6304	24
18	那須 一貴	観光	経営管理、経営戦略、業務改革など、企業経営に関わる問題解決方法について実践を通じて学び、即戦力ビジネス・パーソンを目指す	特になし	15名	6409	25
19	林 薫	理解	「持続可能な世界の実現」	「開発と国際協力」「資源と国際協力」	12名	6306	26
20	黛 陽子	観光	インタープリテーション 「知る・調べる→伝える→つなぐ→解決策」	「生態系と人間」「国際観光とデザイン」 「インタープリテーション論(理論・応用演習)」「観光と国際協力」	14名	6417	27
21	丸山 鋼二	理解	日本とアジアの相互交流を考える。サブテーマは日中関係、日韓関係、現代中国論、中国語、日本外交、日中韓・アジア相互の文化交流・市民活動、国際情勢・世界地図等。	「現代中国論」など	12名	6408	28
22	宮原 辰夫	観光	世界遺産と地域再生、自分たちのまちおこし	「イスラーム入門」「地域研究F(南アジア)」	10名	6405	29
23	本浜 秀彦	理解	国際日本研究	「現代日本の諸問題」「日本の地理と歴史」など	9名	6311	30
24	山口 一美	観光	観光事業とホスピタリティ・マネジメント	「観光サービス」「国際観光とホスピタリティ」	15名	6316	31
25	山崎 裕子	理解	世界の文化を哲学する	特になし	10名	6410	32
26	山田 修嗣	理解	市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～	特になし	14名	6209	33
27	山脇 千賀子	理解	人間の視点からグローバリゼーションにむきあうこと —3.11以降の多文化共生の可能性—	「国際学研究A」「国際理解とコミュニケーション」	12名	6210	34
28	横川 潤	観光	観光ホスピタリティ、食のマーケティング(経営者に対する企画プレゼンテーション)	横川先生の担当科目	14名	6413	35
29	渡邊 暁子	理解	「文化人類学から現代社会の課題を考える」 キーワード: 格差、社会的排除、貧困	「文化人類学」、「国際協力論」、「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部の関連科目	10名	6305	36
30	X	観光	観光マーケティングの実践	「観光マーケティング論」、「消費者行動論」	15名	—	37

※ 説明会当日の説明順序とは関係ありません。

担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6213
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、地歴科教育法Ⅰ、公民科教育法Ⅰ、総合演習、4年・3年ゼミ、教育実習(中・高校) [秋学期] 道德教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、地歴科教育法Ⅱ、公民科教育法Ⅱ、教職実践演習、(越谷校舎の「特別活動論」)
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道德教育を中心として、教育学全般に関心があります。 ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「児童虐待」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関することでしたら、すべてOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレる子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それら「教育病理」への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。 これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。 実践的指導力のある「教師」を目ざして、共に歩んでいきましょう。
ゼミの進め方	①3年春学期は、「幼稚園児」等との交流学习の企画・準備・実践を行います。 ②3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。 ③4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④卒論執筆と同時に、幼稚園児や特別支援学級の生徒との交流会、茅ヶ崎市内の小・中学生への学習支援ボランティア、1年教職課程学生に「楽校」実践、柳島卒論検討合宿、愛の湘南PK、カンボジア・スタディツアーなどを行います。 「幼稚園児から教育長まで」ふれあって、教師としての実践的指導力を養います。
留意事項 (Requirement など)	以下の2つの活動に必ず参加していただきます。①茅ヶ崎市内中学校サマースクール支援②カンボジア・スタディツアー
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
募集人数の上限	10名まで。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂ゼミでは、「教育」という大きなテーマのもとに、一人ひとりが自ら考え、理想の教育の在り方を追求し、楽しく議論しています。 赤坂先生が目指す「響育・共育・協育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。夏には、カンボジアの子どもたちに出会うスタディツアーもあります。 人と人とのふれあいを大切にし、実際に「幼稚園児から教育長まで」ふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。 特に将来、絶対教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。 (4年)



担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	<a href="mailto:k-ano@shonan.bunkyo.ac.jp">k-ano@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6309
出講日	火曜日・水曜日・木曜日 (月曜日も出校の場合あり)
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】英語科教育法Ⅲ、英語教育研究、教育実習 A、大学院科目 【秋学期】英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、英語音声学、 教職実践演習
研究室を訪問できる時間帯	原則として火・水・木は 1 日中大学にいますので、いつでも歓迎です。空き時間は研究室前の予定表で確認してください。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を対象としたゼミです。学校教育における英語指導のあり方について、小学校、中学校、高等学校での英語の授業を大きな枠組みの中で捉え、それぞれの学習段階に応じた授業について考えます。日本の英語教育は、2020 年を目指して本格的な改革の真っ只中にあります。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから現場に輩出したいと思っています。主役はあくまでもゼミ生です。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作っていきましょう。
ゼミの進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、全員でディスカッションをします</li> <li>・イベント (中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表、海外の大学のゼミとの合同ゼミなど) に向けての準備をします</li> <li>・英語教育現場 (学校や出版社) の訪問やゼミ宿舎などを随時実施します</li> <li>・4 年生は卒業論文・卒業制作の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います</li> </ul>
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習支援ボランティア、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して積極的に取り組みましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、教職科目全般。
募集人数の上限	学校訪問等の実施をふまえて、10 名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員と面接を行います。この面接に、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。研究室訪問では担当教員に加え、ゼミの 3・4 年生・大学院生ともどんどん話をしてください。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。ゼミのメンバー決定後には、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶよい授業の作り方」「生徒の学力差に応じた英語指導法」「英語の楽しさを伝える授業作りのポイント」など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	阿野ゼミでは、英語教育を軸にして、実際に学習支援ボランティアなどを行い、中学生や高校生と関わる機会がたくさんあります。その他にも、海外 (2016 年 韓国) の学会発表など、さまざまな活動を行うことで、それぞれのゴールを明確化することができるのが、阿野ゼミの魅力です！大学生活において、ゼミをいかに活用して有意義に過ごすかは重要だと思います！一緒に充実した大学生活を送りましょう！ (4 年 浅原由奈) 阿野ゼミでは互いに切磋琢磨しながら英語教育の研究を行っています。学外では学習支援ボランティアや他大学との合同ゼミなど、とても充実した活動を行うことができます。阿野先生の指導の下、研究を進められることは教員になっても絶対に貴重な財産として誇れます！ここまで雰囲気の良いゼミもなかなかありません！ぜひ阿野ファミリーに加わって一緒に楽しく活動をしていきましょう！ (3 年 石井達也)

担当者名	井門 隆夫 (いかど たかお)
e-mail アドレス	ikado@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	
出講日	金曜 (13:00~18:10)
ゼミの開講時間	金曜 4限・5限
担当科目	ホテルサービス論 (春)、ホテル事業論 (秋)
研究室を訪問できる時間帯	メールにて事前確認・アポイントのうえ、金曜日 4限または 5限のゼミの時間に 6318 (多目的室) までお越しください。ゼミ冒頭 30 分を質疑に充てます。教室外学修の日もありますのでご留意ください。
ゼミのテーマ	宿泊業や地域の課題解決。宿泊業や地域は様々な課題を抱えています。ゼミ内でのディスカッションや実際の現場の課題解決に関わることを通じて、現代観光業に関する問題意識を醸成していきます。
ゼミの内容・メッセージ	将来、宿泊業や観光産業で働いてみたいと考える皆さんを中心として、観光地や宿泊業のマネジメント、マーケティング、オペレーションについて学修します。ゼミの目標は「消費者としての立場しか知らない学生が、生産者・サービス提供者の立場を理解・実践できるようになること」としています。3年次のゼミでは (今年度から) 毎週のテーマに即したミニディベートを行い、観光産業で起きている現代的課題について問題意識を醸成します。そのうえで、夏休み・春休みを利用して各 1 週間程度のフィールドワークを行います。フィールドワークの目的は「机上の学修」と「社会の現場」との違いを肌感覚で学ぶとともに、社会人同様の「臨機応変」力 (発想と行動の柔軟性) をつけることにあります。4年次のゼミでは自らの問題意識をもとに卒業論文としてまとめ、調査・執筆を行います。両学年を通じて、休みを利用した地域や企業への 3 週間程度以上のインターンシップ参加も推奨します。
ゼミの進め方	3年次では、春・秋それぞれ 1 か所ずつフィールドワークのテーマと場所を指定します。テーマを考えるうえで知っておくべき観光に関する知識をディベート形式でインプットする事前学修と、休みを利用して実際に地域に出向き、そのテーマに関して現地の方と協業しながら課題解決を実践する活動 (サービス・ラーニング) を行います。フィールドは原則として国内から選択します (今年度は長野県と新潟県)。毎週のゼミでは、毎週前週に「お題」を出しますので、全員がその是非を両面から調べておくことが求められます (例えば「マス・ツーリズムは有効か否か」「観光産業の給与を上げるべきか否か」等)。毎週のゼミとフィールドワークへの参加は全員必修とします。4年次では、各自が卒業論文に関するテーマを決め、執筆をしていきますが、その過程で自主的なりサーチ (インタビュー、アンケート、実験、参加観察等) を必ず行うこととします。その前に、類似調査や先行研究がないか、文献調査も行います。
留意事項 (Requirement など)	3年次には年に数回、現地を訪ねます (フィールドワークは 8月と 2月のそれぞれ 1 週間)。極力低廉な手段を使いますが、交通費や宿泊費等 (年間 10~15 万円程度) が必要となることを条件としてご承知おきください。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。幅広い科目を履修し、問題意識を高めてください。
募集人数の上限	17 名 (予定)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類選考で選抜します。その際、学びたいテーマや問題意識がより具体的で、かつゼミの目標に添った方を優先します。(仲の良い友人と一緒にがよい、フィールドワークが楽しそうだから、という理由の方はご遠慮ください)
ゼミ受入決定者への指示	極力、冬休み期間中 (2月) に 3年生が実施するプロジェクトにオブザーバーとして参加してください。ゼミ Facebook ページもご覧ください。
代表的な卒業論文のテーマ	「ホテルとまちの新しい関わり方ーまちぐるみホテルの今後の発展」 「ホテル業・飲食業の離職率ー現況と改善案」 「NHK 大河ドラマ真田丸がもたらす経済効果ー長野県上田市の事例」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	私たちのゼミは、宿泊業の課題解決を目的としたフィールドワークを積極的に行う超実践型のゼミナールです。主に宿泊プランやイベントの企画・運営を行ってきました。問題を認識したうえで、どんな解決策を提案するかは学生次第。苦楽はありますが、ゼミでの経験を通して心身とも成長することができます。

担当者名	生田 祐子 (いくたゆうこ)
e-mail アドレス	<a href="mailto:ikuta@shonan.bunkyo.ac.jp">ikuta@shonan.bunkyo.ac.jp</a> (FB/LINE での問い合わせも可)
研究室	6407 (6号館4階)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4時限と5時限 (4時限ゼミは3211教室で行っています。) ゼミ見学予定日: 9月30日・10月7日・10月14日
担当科目	英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 EIC201 英語コミュニケーションスキル演習 基礎ゼミ 専門ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	火曜日・水曜日・金曜日 12:40-13:15 *その他は時間を予約ください。 *研究室ドアに研究室訪問とゼミ見学ができる詳細日時を掲示します。
ゼミのテーマ	「平和を創り、世界へつながるコミュニケーション」
ゼミの内容・メッセージ	このゼミでは、グローバル化社会と言語の諸相を学びつつ、世界を舞台に仕事ができるレベルの英語コミュニケーション力を養います。 世界は多言語社会が標準、価値観や文化も多様です。次代を担うみなさんには、世界と関わり、異なる言葉話す人たちと共に生きていく「グローバルな対話力」が必要です。模擬国連活動等を通して、どうすれば世界の人々と相互理解を深めることができるかを議論しつつ、実践的に高度な英語を使う環境を提供します。国際理解と平和が根幹を流れるテーマ。 おすすめ対象: グローバルな視点から英語教育を担う英語教師を目指す、国際理解教育や日本語教育に関心がある、グローバル企業で働きたい、通訳や映画翻訳を仕事にしたい、国連や JICA のような国際機関にチャレンジしたい等のビジョンのある学生。生田ゼミは、「まじめに」世界とつながる卒業生を送り出しています。大学院進学、長期留学、インターン留学、奨学金による留学を願っている人も応援しています!
ゼミの進め方	3年生: 英語力のさらなる向上! 英語はゼミの公用語です。 1. 日本大学英語模擬国連(JUEMUN)活動(春) →膨大な英語の資料を読み、語彙を増やし思考力を鍛えます。 2. 海外の大学と合同セミナーによるグローバルリタラシー演習 VLE (Virtual Learning Environment) を活用して行います。(秋) 3. NY 国連研修(春)、国際機関でのインターン、ボランティア(夏)、 英語教育、国際理解等の学会への参加も奨励します。 4. 英検準1級/TOEIC800点を目指す課題。(英語教職の学生は必須) 4年生: 社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力(観光も含む)分野の 卒論研究を指導します。日本語で執筆、発表はできる限り英語です。 準備段階から個人指導を重んじています。 *ゼミ内容は、学生の関心/英語力等の諸事情により変更することがあります。
留意事項 (Requirement など)	1. 3年次(5セメスター)で「社会言語学」「通訳入門」「平和学」を履修。 2. 9月中旬の合宿(卒論中間発表・3年生課題発表)へ参加すること。British Hills (福島県)または山中湖のカナダ人ペンションで行います。
ゼミ履修に望ましい科目	英語コミュニケーション論、英語教職、国際協力、国際理解の関連科目
募集人数の上限	10名。卒論等の個人指導の時間を考慮し、少人数ゼミとしています。
選抜の必要がある時	日本語の志望動機エッセーに関して、英語による面接を行います。
ゼミ受入決定者へ	来春のNY国連研修は、模擬国連参加の大切な第一歩になりますので、できる限り参加ください。参加しない人へは課題を用意します。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』 “English as Lingua Franca to Bridge Asian Countries: An English Experience in Cambodia” 『アジアを繋ぐリングフランカとしての英語-カンボジアでの英語体験-』 “The Life Reality of Non-Japanese Residents in Shonan Area and their Problems towards Globalization in Japan” 『湘南地域の外国籍市民の生活から考える日本の国際化への課題』 *研究室ですべての卒論を閲覧できます。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	英語が好きで国際性豊かな学生が集まっています。互いの違いを大切に、ひとりひとりが世界へ飛び出すゼミです! 大学祭のGlobal Community Caféへも是非お立ち寄りください! Seminar Students 2016

担当者名	井上 由佳(いのうえ ゆか)
e-mail アドレス	<a href="mailto:yukai@shonan.bunkyo.ac.jp">yukai@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6308
出講日	月・水・木曜日
ゼミの開講時間	木曜日 4 限・5 限
担当科目	<春>国際学入門、文化政策論、博物館教育論、新生ゼミナール、専門ゼミナール他 <秋>交流文化論 A, 博物館実習専門ゼミナール、大学院科目他
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木曜日の昼休みなど授業時間以外 (事前にメールをください。)
ゼミのテーマ	「知と文化でおもてなし」-文化施設で人々と地域をつなぐ
ゼミの内容・メッセージ	このゼミでは、身近にある文化施設をどのような場にしていけば、そこを訪れる人々は心を開き、新しい文化を吸収し、さらに生み出していくのかを考えていきます。 ゼミでは博物館や美術館といったミュージアム、水族館、動物園、図書館、音楽ホールといった文化施設に注目し、文化や自然科学の知見を発信しつつ、人々の声を受けとめてさらに進化する、双方向のコミュニケーションを実現する「知と文化で人々をもてなす場づくり」について学び、実践していきます。これまでに茅ヶ崎市美術館、海岸青少年会館等の施設でワークショップ等をゼミ生が主体的に企画し、運営してきました。ゼミ企画のイベント、フィールドワーク、ゼミ合宿には原則として必修参加です。
ゼミの進め方	3 年生の間に、ミュージアムに関する基礎的な文献を輪読し、レジュメの作成・発表・ディスカッションをします。また各自のコミュニケーション・スキルを磨くトレーニングを同時に進めます。また合宿を含めたフィールドワークでは、ミュージアムを仲間と楽しみながら「問題意識を持って物事を見る」練習をし、「知と文化で人々をもてなすことの意味」を考えます。随時、学外でのワークショップの企画と運営をします。4 年生は卒業研究とワークショップの企画に取り組みます。
留意事項 (Requirement など)	学外でも活動するため、豊かな発想力、自ら発言し動く積極性、協調性と責任感を持って行動できる学生を歓迎します。
ゼミ履修に望ましい科目	交流文化論(A,B)、文化政策論、博物館教育論
募集人数の上限	10 名(ワークショップの企画運営の際に大人数は難しいため)
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望調査票の内容から判断し、必要に応じて面接を実施予定。
ゼミ受入決定者への指示	3 年生になる前の春休みに新 3・4 年生合同ゼミ合宿を開催します。詳細は追ってメールで連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	ミュージアムと観光、アートフェスティバル、動物園の利用実態、学校や地域とミュージアムの連携など
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	学外で行うワークショップはゼミ生主体で企画するので、コミュニケーションの場づくりに1から関わることができます。フィールドワークでは様々なミュージアム等を訪れ、職員のお話を聞いたり、ゼミ生で意見を共有したりするので、審美眼を高め、多様なものに寛容になったりと自分自身の成長につながりました。ミュージアムが好きな人やワークショップに興味がある人はぜひゼミ見学に来てください！(4年Iさん) 就活で「美術館等について勉強しています」と書くと、直接ミュージアムに関係のない業界でも興味をもってもらったことが多かったです。ワークショップ等の企画運営を通して学べることもたくさんあります。フィールドワークはとっても楽しいですよ！(4年Sさん)



担当者名	奥田 孝晴 (おくだ たかはる)
e-mail アドレス	<a href="mailto:okuda@shonan.bunkyo.ac.jp">okuda@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6406
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 国際学入門、近現代史基礎、アジア太平洋経済論、他大学院講座 [秋学期] 開発経済論、国際理解と経済、近現代史基礎、国際学研究C、他大学院講座
研究室を訪問できる時間帯	原則として月～木 (しばしば金も) は出校している。昼休み、専門ゼミ開講時間、研究室前にある予定表空き時間に訪ねてください。(仕事上、学部長室にいることが多い。そちらにも訪ねてください。)
ゼミのテーマ	「国際学の旅」を続ける：国際学の諸課題、アジアと日本の過去/現在/未来、第三世界論、飢えや貧困の研究、核と市民社会、アジア経済など「守備範囲」は”イチロー並み”に広い。
ゼミの内容・メッセージ	1年生の「国際学入門」を思い返してください。そこで私が皆さんに投げかけた幾つかの問題を覚えているでしょうか？ゼミはその続編で、それらの問題群を考える「国際学の知の旅」の延長です。たとえば、「アジアの中の日本」、「東アジアの歴史認識」、「第三世界の飢えや貧困問題」、「オキナワ」、「ヒロシマ」、「ロッカショムラ」、「フクシマ」、「東京 - 東北 (中枢 - 周辺) 構造」、「経済発展と社会変動」といった幅広いテーマから、現代国際社会のあり方を理解していきます。また各地の「国際学の現場」を訪ね、自分とのかかわりを模索していきます。こうした問題群に知的関心の有る諸君の参加を求め、一緒に勉強していきたい。
ゼミの進め方	① 3年次は上記の問題群にかんする基本的文献の輪読、発表に基づく意見交換が中心。 ② 4年次は各自が取り組むべき知的課題を見出し、卒業論文を執筆する。 ③ 適宜、「国際学の現場」を訪ねる旅を行う。④ゼミの「はみ出し」として、諸々の研究会、プロジェクトにも参画を期待します。
留意事項 (Requirement など)	ゼミは「知の共同体」です。学生・教授の区別なく、共に「学び、教え・教えられる」よき仲間作りを目指しましょう。そうした志向を持つ人、それが最大・唯一の requirement です。
ゼミ履修に望ましい科目	特にはないが、これまでの国際学部での学習をふまえ、上にあげた問題群への理解、知的関心に触れる科目の履修が望ましい。また、ゼミで行う課外研究活動や「国際学の現場」を訪ねる旅に積極的に参加して欲しい。
募集人数の上限	学外での研修活動を行うことなどをふまえて、最大12名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科に関係なく希望者全員との面接にて選抜します。(たぶん、選抜の必要もないと思いますが。) 選考にあたっては、上記のような問題群への知的関心・真摯な勉学姿勢を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行う。(期日は別途連絡します。)
代表的な卒論のテーマ	「原子力依存社会からの脱出に関する考察」 「発展途上諸国における『自立』の展望に関する考察」 「義務教育段階における開発教育授業実践の研究」 「日本におけるマイクロクレジットの可能性」 「コーヒーの”苦味”から考える国際学：珈琲の「不都合な真実」に関する考察」 「巨人 (ジャイアンツ) 帝国主義批判：なぜ『中央の球団』はかくも傲慢なのか？」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	奥田先生のゼミは「難しいけど楽しいゼミ」です。皆で選んだテキストをもとに核問題や貧困問題などのテキストを題材とした毎回の議論はなかなかです。また、東アジア近現代史テキストの英訳作業、東北一東京論研究会など、ゼミからの「気ままなはみだし行為」や毎年実施の六ヶ所村 (青森県) への旅では原子力エネルギーに依存する社会のあり方、無農薬農業体験を通じた自然との接触のあり方などを考えさせられます。先生が引率するバングラデシュへの研修の旅もエキサイティングです。基本的に「自分で考える力」を要するので、相応に学びに真摯な人に来て欲しいです。でも硬いことだけでなく、夏にはプロジェクトD (中日ドラゴンズ応援観戦) など、ユニークなイベントもあります。一度、訪ねてください！

担当者名	海津 ゆりえ
e-mail アドレス	kaizu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6307
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木3・4
担当科目	【春】新入生ゼミナール、国際学入門、地域プロジェクト演習Ⅰ、エコツーリズム論、専門ゼミナールⅠ・Ⅲ、サステナブル・ツーリズム特論（大学院） 【秋】観光資源論、地域プロジェクト演習Ⅱ、地域のサステナブル・デザイン論、専門ゼミナールⅡ・Ⅳ、地域計画特論（大学院）
研究室を訪問できる時間帯	原則として月曜1時限目、水曜2時限目、木曜3時限目、月・水・木の昼休み。 変動があるので研究室扉に掲示します。
ゼミのテーマ	エコツーリズム 一宝探しから始まる
ゼミの内容・メッセージ	エコツーリズムは20世紀後半に途上国の自然地域で生まれ世界中に広がった観光の新しい考え方です。本ゼミはこの「エコツーリズム」がテーマです。エコツーリズムとは、自然や文化などの地域の宝を掘り起こし、観光客に楽しんでいただきながら課題も共有し共に考えること。資源・地域・観光がwin-win-winとなることが目標です。具体的にはどういうことなのでしょう？ 実践するにはどのようなしくみが必要なのでしょう？ 事例研究を通して問いを解きながら、宝探しとエコツアーの実践に挑みます。地域活性化や自然保護、地域の人々との交流、旅づくり、観光地域経営に関心があり、提案力を身につけたい学生を歓迎します。
ゼミの進め方	<u>3年次はエコツーリズムの理解と体験知を積むことが目標です。</u> 第一ステップ：文献研究、フィールドワーク、ディスカッションを通して「宝探し」と「エコツーリズム」への理解を深めます。春合宿、夏合宿、学期中のフィールドワーク等を通してエコツーリズムの現場を訪ねます。 第二ステップ：実際の地域を対象に「宝探し」を行い、エコツアーの企画と実践を行います。あなたが考えるエコツアーは地域と旅人の何をどう変えるのでしょうか。 第三ステップ：一年間の学びの成果を学外でプレゼンテーションします。 <u>4年次は卒業研究を行います。</u> 各自の研究テーマに基づき、研究を進め、論文を執筆します。フィールドを決めて調査研究を行うことを義務としています。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークや合宿を行うため費用がかかります。</li> <li>・合宿は春休み、夏休み（1週間程度）、秋学期中に行います。全員参加です。融資参加のフィールドワークも随時行います。気軽に旅に出るフットワークを！</li> <li>・ゼミと並行して希望者参加のサイドプロジェクトが多数あります。</li> <li>・3年次の個人課題として「一人旅」を課しています。年度末に報告会有り。</li> </ul>
ゼミ履修に望ましい科目	エコツーリズム論（必須）、観光資源論、地域プロジェクト演習
募集人数の上限	15人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	レポートを課し、面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	決定しだい、ゼミの進め方について相談会をします。
代表的な卒業論文のテーマ	エコツーリズム、震災復興、地域活性化、環境保全、野生生物など多様です。 研究室に見本があるので、閲覧に来てください。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	Q：海津ゼミナールのおすすめポイントは？ A：いろいろなプロジェクトがあるので多くのことに挑戦できます。／他大学生や様々な職業、年齢の方々と一緒に取り組む機会が多数！／ヒアリングを通して目上の方と直接話すことが多く、就活や社会人になるうえでの基礎力になります。／ふだん訪れることのない島や小さな集落などと密に関わり、その先の関係にもつながっていきます。／観光客・住民・地域が Win-Win になる観光を探っています。人との出会いも多く、貴重な経験も多くできます。／自然や文化との関わりは地域活性化や観光を学ぶ上で重要な体験です。／たくさんの方と話すことによって自分に自信が持てるようになりました。そういう経験を後輩にもしてほしいです。／発表やディスカッションの機会も多く話す力が身に付きます。／学ぶときは真剣に、遊ぶときは思いっきり遊ぶというメリハリがあります。

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	<a href="mailto:kanai@shonan.bunkyo.ac.jp">kanai@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6418
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4,5 時限
担当科目	日本国憲法(第1 セメスター)、法学(第2, 第3 セメスター)、憲法(第3 セメスター)、法と行政A(第4 セメスター)、法と行政B(第5 セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	水曜 2 限～昼休み、金曜昼休み～ 3 限
ゼミのテーマ	憲法・行政法・地方自治論・在日外国人の人権・子どもの貧困
ゼミの内容・メッセージ	<p>憲法学・行政法学の基礎知識をもとに、社会問題について調べ、ディスカッションします。</p> <p>憲法は、どこの国でも社会の基本となる法です。一方、行政法は皆さんにとって馴染みが薄いかもしれませんが、現代社会では「犬も歩けば行政法に当たる」という言葉があるほど、行政法が私たちの生活に浸透しています。皆さんが社会的関心を抱いている事柄は、きっとどこかで憲法と行政法に繋がっています</p>
ゼミの進め方	<p>1 学年のゼミを二つのグループに分けます。</p> <p>第 1 グループは、「憲法・行政法を使う仕事に就くこと」を目標にする人たちのグループです。公務員や行政書士を目指す学生が対象です。自治体政策や入管・難民事件のケーススタディを中心に進めます。</p> <p>第 2 グループは、「特定の社会問題に関心があり、その問題を憲法・行政法の観点から考察すること」を目標にする人たちのグループです。個々人の関心のある領域や関心の度合いに応じて進め方を変えます。</p>
留意事項 (Requirement など)	<p>二つのグループが並行する関係で、開講時間が前後する場合があります。</p> <p>3 年生の夏休みから秋学期にかけて、インターンシップ・学外研修に参加してください。</p> <p>公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。</p>
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目 1 科目以上 (ただし担当者は問わない。)
募集人数の上限	10 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1 月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
代表的な卒業論文のテーマ	「在留外国人の社会的差別」「ヘイトスピーチと表現の自由」「難民認定制度の問題点」／「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「待機児童対策の効果と課題」「学校事故の過失責任」／「交通ルールと社会秩序」「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」／「自治体における産・公・民の三者協働」「ナショナリズムと国民国家」「情報化社会におけるプライバシー」
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	<p>*第 1 グループ*</p> <p>地方公務員の志望者が多いので、憲法と行政法の重要判例を読み解きながら、地方分権や自治体の政策について学んでいます。最初のうちは課題をこなすのが大変でしたが、実力がつくると自分の問題意識が持てるため、面白くなってきました。先生は厳しくて優しいです。</p> <p>*第 2 グループ*</p> <p>ものすごく自由なディスカッションを通じて、「自分で考える力」が鍛えられます。また、身の回りのニュースにも自然と関心を持てるようになり、それに対する物の見方や考え方も深まると思います。少しでも興味がある方は是非一度、金井ゼミに足を運んでみて下さい！</p>

担当者名	北野マグダ
e-mail アドレス	<a href="mailto:magda@shonan.bunkyo.ac.jp">magda@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6412
出講日	月・火・水・金
ゼミの開講時間	金4（3年生）、金5（4年生）
担当科目	英語表現A、英語表現B、ESP 6、翻訳入門、EIC201
研究室を訪問できる時間帯	月・水（昼休み）@6412
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is “Culture in Media,” and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, I will present a new topic followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis in English. At least a level 3 English class membership is recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	Taking an English writing course will aid in writing your reports. I especially recommend my ESP F class. English discussion and debate courses will also help in participating in classroom discussions.
募集人数の上限	13
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by participating in the Language Garden lunch chats and reading English books and Internet sites for pleasure.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, Fantasy School Life in Japan and America
所属ゼミ生（先輩）からの 一言	



担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6317
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	春学期：エアラインビジネス論、ホスピタリティ人材開発ほか 秋学期：交通事業論、エアラインサービス論、テーマパーク事業論ほか
研究室を訪問できる時間帯	出講日 (月・水・木) の空き時間、ただし火・金でも訪問可の場合あり ※詳細は研究室前に掲示するので確認のこと。
ゼミのテーマ	交通事業・交通政策研究 ～自由化時代における交通事業の役割と交通政策のあり方～
ゼミの内容・メッセージ	私たちは毎日の通勤通学で電車やバスを利用し、休日には航空、新幹線、高速道路などを利用して旅行に出かけます。小島ゼミではこのような航空、鉄道、自動車交通 (バス・タクシーなど) などの交通機関や、空港・道路といった交通インフラなどを研究対象としています。各交通機関の個別の問題から、交通と観光振興、交通と環境、地方交通の維持といった横断的な問題まで、交通に関わる幅広いテーマを取り上げ議論していきます。 小島ゼミは今年 4 年目の新しいゼミですので、皆さんと一緒にゼミの歴史を作っていきたいと思います。
ゼミの進め方	[3 年次] 春学期では交通政策に関する文献を輪読し、交通事業や交通政策に関する基本的な知識を習得します。夏休みにはゼミ合宿を実施し、交通事業者への訪問などを通して知識を深めます。秋学期ではそれらの知識を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。こうした勉強を通して、3 年次終了時までに各自卒業論文のテーマを決定することを目標とします。 [4 年次] 春学期では卒業論文の作成に向けて、研究計画書の作成や中間報告を行います。秋学期では卒業論文の作成指導を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミで勉強したいことが明確であり、ゼミ活動に積極的に貢献してくれる学生を求めます。
ゼミ履修に望ましい科目	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論の履修を強く勧めます。
募集人数の上限	13 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望調査票の内容にもとづいて面接を実施します。
ゼミ受入決定者への指示	事前オリエンテーションを実施します (別途連絡)。
代表的な卒業論文のテーマ	「空港の民営化が地域にもたらす影響」「シンガポール航空に学ぶ顧客満足度」「地方公共交通のあるべき姿」「リニア中央新幹線の必要性」「2020 年東京オリンピックと東京の交通の課題」など
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	・小島ゼミはゼミ生各自が好きな交通について学べるゼミです。航空はもちろん地域のご当地鉄道に至るまで、自分の興味を広げられることができます。ゼミで自分の好きな分野を広げましょう！ ・小島ゼミでは先生が普段授業では見せない姿を見ることができ、先生のことが大好きになれますよ (笑)。交通について知識を深めたい方は是非見学にいらして下さい。 ・小島ゼミは世界の観光交通などを学びながら、それぞれが真面目に取り組んでいます。実際のゼミの雰囲気を味わってもらおうよう、皆さんの見学をしてお待ちしています！

担当者名	齊藤 功高 (さいとう よしたか)
e-mail アドレス	saito@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6216
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限 (3 年ゼミ) 金曜日 5 限 (4 年ゼミ)
担当科目	[春学期] 新入生ゼミナール、国際人権法、国際理解と法、特殊講義 (人権法)、 専門ゼミ I (3 年)、専門ゼミ III (4 年) [秋学期] 法学入門、国際機構論、国際環境法、基礎演習、専門ゼミ II (3 年)、 専門ゼミ IV (4 年)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日昼休み・4 限 5 限、水曜日 2 限・昼休み、金曜日昼休み・4 限・5 限
ゼミのテーマ	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—
ゼミの内容・メッセージ	国際法は国際社会の法として国際法主体 (国家、国際組織、NGO、個人、多国籍企業) が守るべき法規範である。国際法主体はおおよそ国際法を遵守しているが、時には国際法主体同士の合意形成ができないため、軋轢が生じることがある。また、現実の国際社会は、急速に変化しているので、よく言えば、発展しているため、現状の国際法では解決できない問題が発生する。 そこで、国際法の視点から現状の国際社会の事象を分析し、そこに潜む問題点をえぐり出し、その問題解決にはどのような方法があるのか、また、新しい国際社会の動きに対応する国際法はどうあるべきか等を研究する。 具体的な各自のテーマはゼミ生と話し合いの上、決定する。
ゼミの進め方	① 3 年次春学期は国際法全般に関するプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。春学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ② 3 年次秋学期は個別のテーマに沿ったプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。秋学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ③ 4 年次春学期は、卒論作成に向けて、テーマ及び内容を確定する。概略をレポートとしてまとめる。 ④ 4 年次秋学期は、夏休みを通して書き上げてきた卒論草稿を精緻な卒論に仕上げる。
留意事項 (Requirement など)	①ゼミ合宿を行う (希望者)、②海外研修を行う (希望者)、③4年卒業旅行を行う (希望者)、④その他、学会出席 (希望者)
ゼミ履修に望ましい科目	法学入門、国際理解と法
募集人数の上限	専門性を考慮して 9 名を募集上限とする。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	原則として面接を行う。その際の順位は以下の通り。 ①第 1 順位として国際協力領域所属の学生。 ②第 2 順位として理解学科の他の領域の学生。 ③第 3 順位として観光学科の学生。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れが決定後、1 2 月あるいは 1 月に 3 年生・4 年生と顔合わせ会を行う。その際、4 月までの指示を行う。
代表的な卒業論文のテーマ	人権 (女性、子ども、難民など) に関するテーマ
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	[3 年生から] 国際法はすべてのことに関わっているので非常に役立ちます。話しやすい雰囲気の中、活発に議論しています。先生もおもしろいですよ。[4 年生から] 飲み会では、先生や 3 年生、時には先輩と交流する機会があり、楽しいですよ。合宿も面白いですよ。きちんと勉強しますが、みんなと一緒に行動することで、一層親密感が生まれます。先生はよくダジャレを言うので、雰囲気が和みます。とにかく、メリハリのあるゼミです。

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6315
出講日	(月)・火・水・木
ゼミの開講時間	3年は木曜4限。4年は木曜5限
担当科目(セメスター)	英語学概論(4)、異文化理解演習(2)、英語とメディア(6)、英語オーラル・コミュニケーション論(4)、英語科教育法Ⅲ(5)、Ⅳ(6)、EIC301(5)など
研究室を訪問できる時間帯	火、水、木の昼休み、同日5限後
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した英語コミュニケーション力養成
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々な表現活動(スピーチ、朗読、ドラマなど)に取り組み、表現力、洞察力、共感力を高めます。小学生対象の英語教育活動にも関わり、リーダーシップとコミュニケーション力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のフェスティバル(全国各地の大学が一堂に会して英語パフォーマンスを披露)での創作劇発表。過去に扱ったテーマはカルチャーショック、環境問題、ビジネスマナーなど。ITも駆使したコメディが塩沢ゼミの伝統。卒業研究も論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。最終目標は「心豊かなコミュニケーターになること」。夏や春に他大学との合同ゼミも実施しています。
ゼミの進め方	3年春学期はドラマの基礎(理論と実践)と、学童保育での英語教育の計画と実践に重点を置きます。秋学期は大学祭ならびにフェスティバルの準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。秋学期は即興の交渉劇の実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介も行います。学期に1回程度、学外の専門家を招き、ワークショップを実施。
留意事項(Requirement など)	聳塔祭ならびに12月の大会で、3年ゼミ生全員で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題。そのための練習や合宿などもゼミ生全体で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。国内外の大学生との英語による交流や合同合宿も行います。旅費は各自計画的に準備して下さい。オープン・キャンパスにもゼミの一環として参加します。
ゼミ履修に望ましい科目	英語とメディア、英語オーラル・コミュニケーション論、英語学概論
募集人数の上限	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類(志望動機)と面接によるが、場合によっては抽選もあり得る。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もあります。
代表的な卒業論文のテーマ	「生きる力を育てる教育」、「複合劇を通して伝える異文化コミュニケーション」、「よりよい人間関係構築への距離と空間とコミュニケーション」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。毎週、大学近くの学童保育で英語の楽しさを伝えています。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。 とにかく英語で何かやりたい!というやる気のある人におすすめです。 ※聳塔祭で劇等のパフォーマンスを上演しますので、興味のある方は是非ご覧にいらしてください。

担当者名	菅原周一
e-mail アドレス	<a href="mailto:suga8216@shonan.bunkyo.ac.jp">suga8216@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6415
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	新入生ゼミナール (1) 基礎ゼミ (2) 英語コミュニケーションスキル演習 (3) 日本経済論 (3) 金融論 (4) 国際観光と会計 (4) 国際金融論 (5)
研究室を訪問できる時間帯	出校日 (月、水、木) の昼休み。なお、原則として、訪問の際はメールで予約してください。
ゼミのテーマ	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる観光業 (ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業、航空業等) を含むいろいろな企業群に関する価値向上に関する調査・研究
ゼミの内容・メッセージ	私のゼミでは、将来、日本経済を元気にしてくれる観光業を含む魅力的な企業を探し、応援するための調査・研究を行っています。この調査・研究を通して、社会人になるための基礎力、専門知識を身に付けることができます。有意義で充実した学生生活を送ることができる 2 年間になります。
ゼミの進め方	3 年の春・秋学期で企業価値評価、投資論に関する基礎的な書籍の輪読ならびに外部機関が提供するイベント (本年度は日経ストックリーグ) に参加しながら、各自で研究テーマ (卒業論文テーマ) を決定します。4 年春学期からは研究テーマの検討を進め、ゼミ内でディスカッションをしながら内容の充実を図り、秋学期に卒業論文執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に積極的であること、やる気があることが重要です。原則として、全員参加の (海外) ゼミ合宿も予定しています。
ゼミ履修に望ましい科目	特にはありません。
募集人数の上限	外部機関が提供しているイベント等に参加する関係で 10 名。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	個別に面接を行うとともに、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	菅原ゼミで学ぶ内容は自分の将来に必要な内容ばかりです。日本の経済を読み解きながら将来日本はどうなっていくのか。幅広い分野 (観光業のみならず銀行、保険会社、自動車など) で勉強していきます。将来自分の姿が決まってない方はぜひ一緒にライフプランニングを考えてみませんか? 勉強だけでなく、BBQ や夏合宿、クリスマスパーティなどイベントもあります♪ 充実した仲間が作れるととてもいいゼミです。興味がある方は遊びに来てください! みなさんをゼミ室でお待ちしております!

担当者名	杉山 富士雄 (すぎやま ふじお)
e-mail アドレス	<a href="mailto:sugiyama@shonan.bunkyo.ac.jp">sugiyama@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6212
出講日	火、水、金 (秋学期)
ゼミの開講時間	金 4
担当科目	経済学、産業組織論、(観光企業の競争戦略)、観光ビジネスの経済学
研究室を訪問できる時間帯	火曜日と金曜日の昼休み
ゼミのテーマ	飲食企業の競争戦略と日本の農業・漁業
ゼミの内容・メッセージ	<p>飲食と農業・漁業を通して、日本の産業と経済を考える。国産の良い食材を使い、店内調理するが、極限まで IT や最先端テクノロジーを駆使する飲食チェーンが隆盛。鳥貴族、スシロー、丸亀製麺、ばんどう太郎など。そうした外食産業及びそこに食材を提供する国内農業・漁業をどう再生させるか考える。</p> <p>あなたが暮らす、または以前住んでいた地域の飲食店や農業・漁業、さらに地域創生・活性化に関心があれば、このゼミナールを選んで下さい。</p> <p>現在の専門ゼミナールでは、テーマパーク(遊ぶ)や、地方空港の民営化・再生戦略、都心部のホテル不足対策(寝る)などについても、ゼミナール所属学生と勉強しています。しかし、これは昨年まで観光系ゼミナール教員が少なく、私のゼミだけで3名になる『2次や3次のゼミ希望者』の要望に応えるための暫定措置です。来年以降は、観光系のゼミナールの教員数も増えるため、私のゼミナールでは観光の『食う・寝る・遊ぶ』のうち、食う(飲食と農業・漁業)だけをゼミナールのテーマにします。私の研究室を訪問され、ゼミナールの実態を見学された場合、来年からはゼミナールのテーマが違うので、よく検討して下さい。</p>
ゼミの進め方	<p>学生の自主的発表を重視する。発表テーマについての飲食企業や農業・漁業の現場に、出来るだけ調査に行き、収集したデータと現場の状況から改善策を考えるようにしたい。</p> <p>卒論テーマが決まり次第、グループで、あるいは各自で現地に行き考えてもらう。</p>
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目
募集人数の上限	9名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	なし。
代表的な卒論のテーマ	代表的な卒論のテーマは、「ディズニーとその他のテーマパークの経営比較」(2016年3月卒業生、現在研究進行中)
所属ゼミ生(先輩)からの一言	

担当者名	鈴木正明
e-mail アドレス	suzukim@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6312
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日4、5限
担当科目	春学期：国際観光と起業、ソーシャルビジネス論、キャリア形成B など。 秋学期：ビジネス倫理、観光ビジネスプロジェクト演習、ソーシャルビジネス特論（大学院）など。
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日の昼休み。 その他、訪問可能な時間帯を研究室のドアに掲示します。
ゼミのテーマ	企業の経営戦略、ソーシャルビジネス
ゼミの内容・メッセージ	企業の経営戦略などについて勉強することを通じて、情報収集力や分析力、プレゼンテーション能力、論理性など、社会で生きていくうえで必要な能力を磨いていきます。自ら起業する場合だけではなく、就職先で新事業の立ち上げを担当する際にも役立つようなゼミにしたいと考えています。ゼミ生の興味などを踏まえて、一般の企業とともに、ソーシャルビジネス（地域や社会の課題を解決することを目的とする企業）も取り上げます。楽しくまた学びの多いゼミにしていきたいと思っています。
ゼミの進め方	① 経営戦略に関する基本的な文献を講読 ② 事例分析（ケーススタディ）やフィールドワーク（起業家へのヒアリング等）を実施、①で得た知識を活用して分析 ③ 経営に関するテーマをグループで研究（研究成果は他大学との合同ゼミなどで発表）
留意事項 （Requirement など）	夏休みにゼミ合宿（起業家へのヒアリングなど）を行う予定です。なお、神奈川産学チャレンジ（企業から与えられた課題への解決策を提案するプロジェクト）にも参加しています。
ゼミ履修に望ましい科目	「国際観光と起業（起業論）」をできるだけ履修してください。
募集人数の上限	12人
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	決定後、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	「電子チケットは普及するのか」「韓国市場においてLINEはカカオトークに対抗すべきか」「生き残る Guest House とは」など
所属ゼミ生（先輩）からの 一言	ゼミでの課題は簡単なものではありません。しかし、困った時には鈴木先生が優しく助けてくれます。ゼミ生は起業したいと思っている人ばかりではありません。起業に詳しくなくても問題ありません。ぜひ鈴木ゼミにお越しください。お待ちしております。（3年生） 「国際学部に入ったけれど経営や起業の勉強がしなくなった…」「国際学とは少し違った事を勉強したい…」と思った人にも鈴木ゼミはおすすめの良いゼミです！気になった人は是非お越しください！（3年生） 私たち鈴木ゼミでは、グループワークを通して業界分析をしたり、経営戦略について学んでいます。学ぶことは簡単とは言えませんが、将来絶対役に立つ知識なのでとても為になります！特にまだやりたいことが明確でない人などなど、大歓迎です*彡(°^°)/*ぜひ鈴木ゼミへ！（3年生）

担当者名	高井 典子
e-mail アドレス	<a href="mailto:takai@shonan.bunkyo.ac.jp">takai@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6310
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金4(3年生)、金5(4年生)…時々2限続きで合同ゼミを開催
担当科目 (セメスター)	国際観光論(2)、トラベル・ビジネス論(4)、旅行法規(5)、専門インターンシップ(6)等。大学院では2科目とオムニバス講義を担当。
研究室を訪問できる時間帯	火曜・金曜のお昼休み、および研究室ドアに掲示する日時。 ゼミ訪問は木曜日4限・5限。
ゼミのテーマ	トラベル・ビジネス 観光行動 インバウンド観光
ゼミの内容・メッセージ	<p>トラベル・ビジネスの研究を通して、社会を知り、世界を知り、自分を磨き、誰かの役に立つ人になること。それが高井ゼミの目標です。</p> <p>高井ゼミを表わすキーワード：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●失敗への不安 &lt; 新しい世界に踏み出すワクワク感</li> <li>●できないことへの言い訳 &lt; 度胸で勝負</li> <li>●チャレンジする、とにかくやってみる。失敗しても、それを糧にする</li> <li>●(でも)ちゃんと頭を使って賢くやる！脳を筋トレする！</li> </ul>
ゼミの進め方	<p><b>研究およびプロジェクト</b></p> <p>3年生は基礎文献や観光関連の時事トピックの輪読からスタート。観光行動研究の理論をベースとしてトラベル・ビジネスを学び、実践的プロジェクトを通して商品や事業企画の創り方を身に付けます。</p> <p>3年生の終わりまでに卒業論文の大まかなテーマ決めを目標に。4年生は夏前までに卒業論文のテーマを確定し、夏休みから秋セメにかけて執筆を行います。</p> <p><b>道案内ボランティア活動</b></p> <p>訪日外国人を主な対象とした「道案内ボランティア～ask me!～活動」を随時行います。頭だけでなく体を使ってインバウンド観光を学びます。</p>
留意事項(Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人旅行者を対象とした調査等はすべて英語で行いますので、一定の英語力が求められます。</li> <li>・全員参加のフィールドワーク(合宿)を年に2回予定しています。トータルで約10万円程度費用がかかります。</li> </ul>
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光論、トラベル・ビジネス論、旅行法規を履修していること。まだ履修していない場合は、これから履修をお願いします。
募集人数の上限	15名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接および課題提出を予定(ゼミ活動に対する熱意、関心領域、英語コミュニケーション能力などを重視します。)
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れ決定後はゼミに参加していただきます。2年生春休み中にもプレゼミおよびプレゼミ合宿を行う予定です。
代表的な卒業論文のテーマ	観光行動分析、インバウンド観光の現場での問題、若者の旅、国際観光を巡る起業の考察、観光を通じた異文化理解など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p>インバウンド観光に関心のある人、お待ちしております。(3年生)</p> <p>ゼミでの研究や活動を通して、視野を広げること、多様な価値観を受け入れることの大切さを学びました。(4年生)</p> <p>体育会系のゼミです！かなりキツイこともありますが、それを乗り越えてプロジェクトをやり遂げたときのリア充感がすごい。(4年生)</p> <p>厳しく、面白く、温かいゼミ。ゼミ生は一生の戦友。(卒業生)</p>

担当者名	千葉 克裕
e-mail アドレス	ch1ba@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6304
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	CALL102, CALL104, EIC C, EIC301, ESP C, 英語科教育法IV
研究室を訪問できる時間帯	昼休み (12:50~13:15)、オフィスアワー(火4限・水2限)にどうぞ。 ゼミ見学は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	英語教育学 第2言語習得理論 応用言語学
ゼミの内容・メッセージ	英語教育学・応用言語学・学習心理学など、主に「英語を教える視点」と「英語を学ぶ視点」両方から言語習得について研究します。初めは日本語を通して理解していた英語をいつの間にか直接理解出来るようになるプロセスなど、第2言語を習得するプロセスを解明し英語教育に応用する方法を探ります。 研究の基礎として、大量の文献を読むための読書法、思考の整理法(マインドマップ等)など「学び方」を学ぶことにも重点を置きます。また、積極的な英語学習を通して、学習者の視点から研究テーマの種を探します。研究テーマにかかわらず、自分の興味関心に従って学問的問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養うことが最大の目的です。 科学的根拠に基づき <b>論理的に議論する能力</b> を身につけ、 <b>高い英語力と理論に基づいた英語教育</b> を実践したい人の参加をお待ちしています。
ゼミの進め方	<u>3年春学期：基礎的研究力の育成</u> ・思考の整理法、ノートの取り方(マインドマップ) ・本の読み方(読書法)とまとめ方・発表の仕方 ・英語科教育法の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索 <u>3年秋学期：研究のためスキルアップ</u> ・文献研究の方法(文献検索・研究カード整理法) ・原書講読 ・先行研究レビューとゼミ発表 ・研究テーマの決定 ・統計基礎 <u>4年：研究論文の作成</u> ・研究デザインの設定とデータ収集 ・データ分析と論文作成
留意事項(Requirement など)	・事前の研究室訪問で十分な説明を受けない場合はサインしません。 (20分以上面談できるようにしてください) ・ <u>かなり沢山の読書</u> を要求しますので、 <u>読書習慣を確立しておくこと</u> 。 ・授業外のマインドマップ講座は要教材費 ・国内ゼミ合宿有り
ゼミ履修に望ましい科目	言語学、英語学など英語教職課程に必要な諸科目、心理学、統計学など
募集人数の上限	9名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	①課題図書レポート(必須) ②面接 ③CASECスコア
ゼミ受入決定者への指示	英検やTOEICを必ず受験し、有効なスコアを提出すること。 春休み中の読書課題リスト有り。
代表的な卒業論文のテーマ	「多読学習の効果」「EFL多読学習者の読解の流暢さについての考察」「動機づけの原因帰属理論」「等価的語義理解を避けるための語彙学習」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	千葉ゼミにはこれまでの自分を見直し、変えるきっかけがあります。漠然と授業を受けて、とりあえず単位を取ってきた今までの姿勢が、このゼミで教えてもらったマインドマップによって劇的に変化しました。授業の集中力が向上し、理解度も高まりました。3、4年ともにほぼ全員英語教職を取っており、理論に重点をおいて教師に必要な能力を輪読とディスカッションを通して学習しています。また、自主的なゼミ活動を行うことで学習する習慣づけも行っています。英語学習は多読を中心に頑張っていて、遊びも勉強も一切手を抜かせません。是非千葉ゼミで充実した2年間を過ごしましょう!



担当者名	那須 一貴 (なす かずたか)
e-mail アドレス	knasu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6409
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金曜日 4限(3年生)、5限(4年生)
担当科目	国際観光とビジネス、プロジェクトマネジメント、観光ビジネスプロジェクト、経営学入門、長期インターンシップ事前研修、キャリア形成基礎
研究室を訪問できる時間帯	研究室の扉に在室時間が書いてあります。どうぞ気軽に訪問してください。
ゼミのテーマ	経営管理、経営戦略、業務改革など、企業経営に関わる問題解決方法について実践を通じて学び、即戦力ビジネス・パーソンを目指します。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、「即戦力ビジネス・パーソンを育成する」ことを目的とします。即戦力ビジネス・パーソンとは、ビジネスに関する知識はもとより、自ら課題を見出し解決することができる能力と、リーダーシップ、協調性、高度なプレゼンテーション能力を身に付けた人材です。これらの能力を身につけるため、当ゼミでは2016年度は、実践的な活動の場として ① 課題解決型プロジェクト(神奈川産学チャレンジ)への参加 ② 志賀高原での「観光情報提供カフェ」の企画・運営 ③ 京王百貨店グループ会社に対する経営改革提案 ④ 「リーダーシップ研修」(年2回、土曜日開催) ⑤ 就職シミュレーションへの参加(年2回、土曜日開催) にゼミ生が意欲と負荷に応じて選択的に参加しています。
ゼミの進め方	① 3年次は文献購読に基づく学生による討議と企業分析発表を行います。サブゼミとして上記課題解決型プロジェクトを行い、実践力を高めます。3年後期には財務会計の基礎を学び、数字でビジネスを考える力を身につけます。 ② 4年次はビジネスケースを用いたケーススタディを中心に行います。様々な企業の事例をゼミ生とともに議論しながら分析していきます。この活動を通じて、学んだ知識を実践でどう使うかを身につけます
留意事項 (Requirement など)	プロジェクト活動が多いため、サブゼミ(課外活動)への参加が求められます。
ゼミ履修に望ましい科目	
募集人数の上限	15名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面談を実施します。
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーションを行います(期日は別途連絡します)
代表的な卒業論文のテーマ	経営戦略、マーケティング、ブランディングに関する研究など。
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	私たちは、ゼミナールの活動を仕事として捉え、メンバー同士を同僚と考えております。三年生の主要プロジェクトである「志賀高原プロジェクト」や「京王プロジェクト」を通じて、一人一人の個性を尊重し、心から感謝し合う関係を築いています。一人では力不足なことも、個々の能力を最大限に生かす事で私たち十六人が十六人以上の力を発揮し、解決しています。この仲間の大切さは、メンバー全員が真摯に取り組んでいるからこそ実感できるものだと思います。あなたも那須ファミリーの一員として、尊敬し合える仲間を作ってみませんか?(3年生) 私たちのゼミナールには多くの挑戦できるフィールドがあります。経営学をプロジェクトを通して実践的に学び、二年間ゼミナールで学んだことは社会人として必要な基礎力に直結しています。四年生から取り組むケーススタディではそれまで学んだ経営学の考え方を活かして、経営者の視点から企業の事例を数字を加えながら分析していきます。ゼミナールの活動の中で時には大変なこともあります。そんな時は先生はもちろんのこと、周りのゼミナールの仲間がサポートしてくれます。真剣に取り組むからこそ周りのゼミ生は信頼できる仲間となります。那須ファミリーは皆さんの挑戦をお待ちしております! (4年生)

担当者名	林 薫 (はやし かおる)
e-mail アドレス	hayashi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6306
出講日	(月)、火、水、木 (春学期)
ゼミの開講時間	木曜日 4限 5限
担当科目 (セメスター)	国際理解論 (2) 地域研究Dアフリカ (3) NPO とボランティアの理論 (3) 開発と国際協力 (4) 資源と国際協力 (4) 国際協力実地演習
研究室を訪問できる時間帯	月曜日 (終日: 要連絡)、火曜日 (1限、昼休み、4限、5限)、水曜日 (昼休み)、木曜日 (1限、3限) ゼミ見学は木曜日 4限、5限。
ゼミのテーマ	「持続可能な世界の実現」がテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	2015年に国連は2030年までの「持続可能な開発目標」を採択しました。これは開発途上国と先進国がともに目指さなければならない目標ですが、その成否は私たちの日常生活のありかたに直接結びついています。ゼミ生の学びたいテーマの設定は自由です。貧困、格差、福祉、子ども、経済、貿易、国際関係、移民と難民、気候変動、環境汚染、防災、災害復興、地域振興、その他いずれの分野も最終的な課題は「持続可能性 sustainability」に行きつきます。理想論だけではない具体的な解決策の提示を目指します。みなさんの学びたい分野やテーマを通じて考えてみませんか。
ゼミの進め方	3年生の春セメスターは持続可能性の基本的な考え方を途上国の現実を通じて学びます。農村の開発の具体例を使って、ロールプレイング方式で生活の向上について実習を行います。秋セメスターでは、ゼミ生の関心の領域について、研究発表とディスカッションを組み合わせて、知識を深めます。4年生の春セメスターでは、討論を続けながら、各ゼミ生のテーマを決定します。秋セメスターでは卒業論文を書き上げます。毎年夏に、任意参加の「インド・スタディー・ツアー」を実施し、途上国の現実を学びます。学外のイベント参加なども積極的に行っています。聳塔祭へも参加します。また被災地の支援活動も行っています。
ゼミ履修に望ましい科目	2年生の秋セメスターの「開発と国際協力」「資源と国際協力」をぜひ履修してください。
募集人数の上限	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接で選抜します。議論やゼミ活動に積極的に発言できるかどうかなどです。
ゼミ受入決定者への指示	決定したら、3,4年のゼミになるべく顔を出すようにしてください。ゼミの機関は短いので、2年生のうちから一緒に学びたいと思います。
代表的な卒業論文のテーマ	「教育の発展 (持続可能な開発目標の課題)」「インドの医療」 「児童労働と子どもの主体性」「ハラール認証から考える異文化理解」 「食糧自給率と食糧ロス～日本の食糧安全保障」「農村開発と外部者」 「日本の防災経験を途上国へ伝える」「バングラデシュの縫製工場」 「幸福と不幸～ブータンの幸福度指標」「カンボジアの孤児院」 「ラオスにおける伝統的農業と経済発展」「貧困対策と現金給付政策」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	「国際協力を仕事にしたい!!」そう考えているあなたの夢はどこまでリアリティーがありますか? 世界で問題になっているものとは何なのか? その解決のための手段としての「協力」とはなんなのか? それを妨げるものはなんなのか? そういったテーマを学生同士でディスカッションしながら、先生の豊富な国際協力経験を交えて学んで行きます。「気持ち」だけでも、「理論」だけでも世界は変わりません。現実と向き合った上での支援を学びたいのであれば、是非林ゼミへ。NGO 大国インドへのスタツアはきっとあなたの世界を変えてくれます (菊地史峻 4年)

担当者名	黛 陽子
e-mail アドレス	mayuzumi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6417
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限
担当科目	新入生ゼミナール、生態系と人間、外国語文献研究、国際観光とデザイン、インタープリテーション論(理論・応用)観光と国際協力
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、月、水の授業の無い時間帯
ゼミのテーマ	インタープリテーション 「知る・調べる→伝える→つなぐ→解決策」
ゼミの内容・メッセージ	インタープリテーションは、観光地の潜在的観光資源（文化遺産等）に付加価値を与え、かつ自然環境の保全活動を活性化させる役割を担います。また、ツーリズムにおけるマーケティングの有効な手段として利用する価値があるとも言われます。本ゼミでは、インタープリテーションの理論と技術を学び、学習だけに留まらず実践を重ねる事で、学生一人一人が卒業時にはインタープリターとして現場で活躍できるようになる事を目的とします。教員がインタープリターとして働いていた経験から、インタープリターは自分の得意とする地に足の着いた現場(フィールド)を持って学びを深める事がもっとも大切であることを感じており、これをゼミの学びの精神としています。このため、地に足の着いた現場として、活動フィールドは国内ばかりでなく、教員が国際協力活動を行なっているインドネシアバリ島を主としています。現地の自然環境、文化、生活慣習、貧困などの多くの課題を直接見て知り、かつそれを観光客に伝え、理解者を増やす流れを作るグリーンツアーの企画を育てること等をします。
ゼミの進め方	インタープリテーションは、直接的に人が伝えるパーソナルインタープリテーションと、活字メディアや映像メディア、展示、解説版等のメディアが伝えるノンパーソナルインタープリテーションの2種類に分けることができ、本ゼミナールでは両方を行なっています。ゼミ活動充実のために、基礎論はゼミでなく、インタープリテーション論(理論)の授業で同時に学ぶことを求めます。ゼミ活動での学習は、机上だけでは理解しにくいいため、野外活動でインタープリターを見る、企画し学生が実践する機会を多く持つことで学びを深めます。メディア論では、デザイン論の学習や映像制作の実践により、社会に情報発信する手法を情報デザインの観点から取り組みます。
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、また、しようと努力できる学生さんをお待ちしています。また、本ゼミではバリ島をフィールドとしますので、全員がバリ島ゼミ合宿に参加することを希望します(15万円程度)。
ゼミ履修に望ましい科目	生態系と人間、国際観光とデザイン、インタープリテーション論(理論・応用演習)、観光と国際協力
募集人数の上限	14名(応募状況による)
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接を実施する。
ゼミ受入決定者への指示	『インタープリテーション入門—自然解説技術ハンドブック』日本環境教育フォーラム著を読む
代表的な卒業論文のテーマ	「フェアトレード市場の研究と商品開発—インドネシアバリ島の紙すき製品を事例に—」*2016年度はグリーンツアーの企画と実践、プロモーション手法を主眼としています。
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	課外活動やプレゼンの機会も多く、様々な事を経験しながら成長できるゼミです。先生は厳しいですが和気あいあいとして楽しくゼミ活動を行っています!

担当者名	丸山 鋼二(まるやま こうじ)
e-mail アドレス	<a href="mailto:maruyama@shonan.bunkyo.ac.jp">maruyama@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6408
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4(3年生)、金5(4年生)
担当科目	【春学期】近現代史基礎、中国語 I 【秋学期】世界史A、現代中国論、中国語 I、基礎ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	火曜日と金曜日の4限が最も望ましい。水曜日の昼休みも対応できます。研究室のドアに時間割を掲示しています。それでも不在の際は、上記のアドレスにメールするか研究室のドアにメモを残すかしていただければ助かります。
ゼミのテーマ	日本とアジアの相互交流を考える。サブテーマは日中関係、日韓関係、現代中国論、中国語、日本外交、日中韓・アジア相互の文化交流・市民活動、国際情勢・世界地図等。
ゼミの内容・メッセージ	ゼミの中心テーマは日本とアジアの相互交流、とくに東アジアの三者、日本・中国・朝鮮韓国の相互関係です。経済的な相互依存関係が深まっているにもかかわらず、領土問題や戦争責任問題等で摩擦がしばしば発生する日中・日韓関係は どうすれば摩擦を少なくし相互理解を深めながら友好を維持することができるのかを考えていきます。そのために、まず中国や韓国・北朝鮮の現状や日本とアジアとの関係について学びます。新聞や年鑑等から現状を知りつつ、アジア関係の基礎的文献を読んでアジアへの理解を深めてもらいます。政治・外交・経済的な側面だけでなく、中国を含めたアジア諸地域で受容されている日本のアニメやファッションといった文化的な側面にも触れたいと考えています。そして、できればアジアの現状を知り文化交流を実践する海外研修旅行にチャレンジしたいと思います。「現在の世界と日本を知り、これからの社会を生き抜いていこう」という意志を持った学生諸君の参加を期待します。留学生の皆さんも歓迎します。
ゼミの進め方	① 3年次はゼミのテーマに関する基本的文献の購読と各自の発表に基づく議論が中心となります。② 4年次は各自の問題意識と知的関心に基づき、卒業論文執筆が中心です。③夏休み等に「東アジアの歴史と現在を知る旅」を行なう。④可能な限りアジア関連の企画や展示等の見学に行き、ゼミ生間の交流を図る。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ合宿など、一定の出費を伴います。
ゼミ履修に望ましい科目	現代中国論など。たんに確認したいことでも良いですし、自分が聞き漏らしたことで理解が不十分なところでもかまわないので、通常の授業で教師に質問する習慣を身につけておくと、ゼミや就職活動等でも役に立つと思います。
募集人数の上限	適正規模と思われる12名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科や領域に関係なく希望者全員と面接して選抜します。面接では、自分の関心のあること、いま感じていること、どんなゼミにしたいか、将来の希望、自己アピールなどをお聞きします。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ所属決定後、各自の関心のあり方等を知っておきたいと思ひますし、今後の進め方などについても意見を聞いたりしたいと思ひますので、研究室に顔を出してください。期日は別途、大学のメール等で連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「中国の自動車産業の展望」「日本ファッションの世界進出」等
所属ゼミ生(先輩)からの一言	現在ゼミ生はおりません。ゼミ生が自分で考えながら行動できる人になることを希望しています。欠席は基本的に認めません。自宅での学習や複数人数による事前準備は必ず求められます(先生より)。

担当者名	宮原 辰夫(みやはら たつお)
e-mail アドレス	<a href="mailto:miyahara@shonan.bunkyo.ac.jp">miyahara@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6405
出講日	金曜日
ゼミの開講時間	金4(3年生)、金5(4年生)
担当科目	政治学入門、イスラーム入門、地域研究(南アジア)
研究室を訪問できる時間帯	昼休みあるいは3限
ゼミのテーマ	世界遺産と地域再生、自分たちのまちおこし
ゼミの内容・メッセージ	現在(2016.7月現在)、日本の世界遺産登録数は20(文化遺産16、自然遺産4)となっています。現在も、世界遺産における暫定リストには11の世界遺産候補が挙げられています。こうした取組みの背景には、日本の文化・歴史を再発見することで、内外の観光客を呼び込み、地域再生の起爆剤となることが期待されています。日本の世界遺産は地域再生の起爆剤となりうるかを検証する。自分の育った町を自らまちおこしする、「自分たちのまちおこし」をテーマに、「まち」の強み、「まち」の資源(宝)を発見し、統計資料を使いながら、あるいはフィールド調査を通して、持続可能な「まち」のあり方を提案することを目指します。
ゼミの進め方	3年次:日本の世界遺産と地域再生の方法論 1. 文献購読とディスカッションによる方法論研究 2. フィールドワーク(日本の世界遺産) 3. 夏季合宿 4. わが町の研究 4年次:卒業研究と卒業論文執筆 ・各自の研究テーマか数人のプロジェクト型研究テーマかを選び、研究を進め、卒業論文をまとめます。
留意事項 (Requirement など)	フィールドワークは全員参加を望みます。
ゼミ履修に望ましい科目	イスラーム入門、地域研究F(南アジア)
募集人数の上限	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	決定後に一度顔合わせをします。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	今年度は、ゼミ生全員による「わがまち佐原市活性化プランプロジェクト」を卒業論文テーマに選び、全員でまとめあげようと頑張っています。

担当者名	本浜 秀彦
e-mail アドレス	motohama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6311
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木4限、5時限
担当科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」、「日本ポップカルチャー論」、「比較文学」など
研究室を訪問できる時間帯	月、水、木の昼休み（加えてゼミ訪問用の「オフィスアワー」を設けます。日時は私の研究室のドアに掲示します。）
ゼミのテーマ	国際日本研究（「日本事情」の括りを広げています。）
ゼミの内容・メッセージ	多様な「日本」のすがたかたちを、各地域の歴史、伝統文化、現代ポップカルチャー、そして海外との比較などから捉え直し、それを英語で発信する、というのがゼミの目標です。 （目指すは究極の「雑学（＝教養）ゼミ」！）
ゼミの進め方	「日本」の捉え方は人それぞれですし、また「日本」への学問的なアプローチ方法もさまざまです。そのため卒論のテーマは、基本的には（文学研究者である私が指導できる範囲で）何を選んでも構いません。ただ、「日本」を再考するための問題意識を皆で共有することも重要だと考えています。 現3年生は、日本文化を知るために「和菓子」をテーマのひとつとして設定しています。春学期は毎週、ひたすらいろいろな和菓子を食べました。 古くは餅や木の実が「菓子」であり、中世においては中国から点心（羊羹、饅頭など）が伝来、戦国時代にはポルトガル、スペインからカステラ、金平糖などの「南蛮菓子」が伝わり、そして江戸時代に花開いた和菓子文化は、ある意味“日本的”文化形成を見せた事例のひとつです。さらに和菓子は、地域の伝統行事、冠婚葬祭、そして観光などと密接に関わりながら、日本列島の各地にその豊かな文化を根付かせています。こうした認識をもとに、後期の授業では和菓子の歴史を基本書などの輪読で学び、参考文献を渉猟する一方、和菓子店をフィールドワークし、その特色を探ります。「湘南」「鎌倉」のイメージ・表象分析の作業とあわせて、卒論の構想から執筆、完成の一連のサイクルを、和菓子という視座からシュミレーション学習しようという目論見です。 ゼミでは、恒常的に読書（ゼミで講読する本は各自で購入）、文章力のスキルアップ、映画鑑賞を行ない、図書館に通って、新聞・雑誌に目を通し、時事問題にアンテナを張ります。ミュージアム（博物館、美術館など）にも足を運び、英語は英検2級（CASEC換算約650点）以上を目指してもらいます。 就職先・進路としては、マスコミ（新聞、雑誌、テレビなど）の営業・編集、メーカーの広報・企画、観光ビジネス全般、国内外の大学院への進学・留学などが想定されるでしょう。ゼミでは、学生の関心をにらみつつ、一線で活躍している社会人を招くなどの刺激も与えています。 以上のような特色を持つ私のゼミに関心がある学生に加わってもらって、厳しくも明るい雰囲気の中で、ゼミを進めていきたいと思えます。
留意事項 （Requirement など）	ゼミ合宿（3年生対象）には、万難を排して参加してください。これはゼミ受入れの重要な条件です。合宿参加のためのスケジュール調整、費用の準備が必要になることを予め承ください。2014年度は沖縄・西表島（4泊5日）、2015年度は紀伊半島・熊野（2泊3日）、2016年度は金沢（2泊3日）に出かけました。2017年度は沖縄？山形？島根・鳥取？（早めに相談しましょう！）
ゼミ履修に望ましい科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」など
募集人数の上限	9人（卒論指導を考えての人数設定）
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接と感想文（日本の文芸作品[映画、小説、アニメ、マンガなど]、あるいは「日本」を描いた文芸作品をひとつ選び、800字程度でまとめる。）
ゼミ受入決定者への指示	新ゼミ生対象のオリエンテーションを実施します。
代表的な卒業論文のテーマ	コンテンツツーリズムとしての文学散歩、アニメと聖地巡礼、流行メイクと女子大生、POP 広告分析、「フツー」について、現代日本カフェ文化考 など

担当者名	山口 一美 (やまぐち かずみ)
e-mail アドレス	yamaguch@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6316
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	新入生ゼミナール、観光サービス、観光心理学、観光ビジネス論、キャリア形成基礎、国際観光とホスピタリティ、キャリア形成A、ツーリズム心理学特論(大学院)、サービス・マネジメント特論(大学院)
研究室を訪問できる時間帯	基本的に火曜日、金曜日のお昼休みですが、他の訪問していただける時間は研究室のドアに貼っておきます。それを見ていらして下さい。
ゼミのテーマ	観光事業とホスピタリティ・マネジメント
ゼミの内容・メッセージ	観光事業(エアライン、ホテル、旅行、ブライダルなど)におけるホスピタリティ・マネジメントについて、1)高収益をあげているホスピタリティ・マネジメントについて研究する。2)海外と日本のホスピタリティの違いについて比較、検討する。3)観光事業においてどのような人材が必要とされ、顧客満足を促進させるのかなど人に関わる要因を取り上げ、心理学的な視点から考察する方法を学ぶ。
ゼミの進め方	① 上記の1)2)3)に関して、課題図書、資料を使って学び、討論、発表を行う。その上で学生自身が興味のあるテーマを選択し、研究、調査、発表を実施する。これらの学習を通してホスピタリティ・マネジメントおよび卒業論文のテーマに関する知識を修得、プレゼンテーション能力、論理的思考の育成を行う。 ② フィールドワークを行い、高収益をあげているホスピタリティ・マネジメントのあり方についてインタビュー調査、質問紙調査を行う。昨年実施したフィールドワークは、長野県小布施町訪問、沖縄訪問(リッツ・カールトン・ホテル沖縄、沖縄ワタベウエディング、美ら海水族館など)、日本航空客室乗務員室、整備場訪問、ハワイ・オアフ島訪問(フェスティバルのボランティア、ハワイアンエアライン訪問、カピオラニ・コミュニティ・カレッジの学生と討論など)を実施した。訪問先については、学生と討議して決定する。③3・4年生合同合宿において、テーマ別にグループ討論、発表を行う。
留意事項(Requirement)	フィールドワークは全員参加が望ましい。
ゼミ履修に望ましい科目	できれば、観光サービス、国際観光とホスピタリティを学習して欲しいと思います。履修していない場合はこれから履修してください。
募集人数の上限	15名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	全員と個別面談をします。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行います。(期日は別途連絡します)
代表的な卒業論文のテーマ	研究室で閲覧して下さい。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	山口ゼミは多くのFWを通してホスピタリティについて学ぶことができます。ゼミ生はいつも明るく、オンとオフの切り替えをしっかりとしているため、夢や目標に向かって切磋琢磨し合える環境に身を置くことができます。山口先生は一人一人の夢実現のためにアドバイスを下さり、心からゼミ生を支えてくださる先生です。二年間目標に向かって挑戦したい方は山口ゼミと一緒に学びましょう。(3年生ゼミ長・副ゼミ長) 山口ゼミはみんな仲良く、楽しいだけではなく、やるときはやるといった切り替えをしっかりと、全員で成長することができるゼミです。山口先生は、ゼミ生一人ひとりの夢にそってアドバイス下さり、学生想いの先生です。二年間の学生生活を充実させたいと思っている人は、山口ゼミと一緒に学びませんか。ぜひゼミ見学へお越し下さい。(4年生ゼミ長・副ゼミ長)

担当者名	山崎 裕子 (やまざき ひろこ)
e-mail アドレス	yamazaki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6410
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 時限目、5 時限目
担当科目	[春学期] 哲学、倫理学、キリスト教入門、 西洋思想と国際社会、新入生ゼミナール [秋学期] 哲学、倫理学、キリスト教文化と社会、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	月曜日 (お昼休み、4 時限目) 木曜日 (お昼休み、4 時限目、5 時限目)
ゼミのテーマ	世界の文化を哲学する
ゼミの内容・メッセージ	世界の文化とその発想法を理解し哲学する力をつけることを目指し、宗教 (主にキリスト教) と哲学について考えていきます。自分の周囲の事柄を当たり前と思わずに、「なぜ」と問う姿勢が大切です。 これまでの 3 年次生共通テキストは、『ソフィーの世界』『4 つの愛』『キリスト教の教え』『哲学論考断片』『選択の自由』『嘘の人間学』など、です。
ゼミの進め方	1. 3 年次の春学期から秋学期の途中まで： 共通テキストを、ゼミ生全員が交代で担当して輪読。この段階で、哲学思想書の読み方を習得します。 この間の成果は、3 年の秋に、簡易製本の小冊子にまとめます。 2. 3 年次秋学期の後半以降： ゼミ生各自のテーマに沿って、発表を進めます。テーマは、哲学やキリスト教の内容でなくても、「なぜ」という問いを含むテーマであれば、O.K. です。 3. ゼミ論文は、完成すると卒業論文となります。
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	特になし。
募集人数の上限	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個人面談。適性と意欲を確認します。
ゼミ受入決定者への指示	入ゼミ決定後、全員で一度集まりましょう。日程は、こちらから連絡します。
代表的な卒論のテーマ	「キルケゴールのなかのソクラテス」「時間の意味」「現代ドイツにおけるキリスト教意識」「人は他者を愛せるか」「幸福を得るためにどのようなことができるのか」「イスラム金融ではなぜ利息が禁じられているのか」「道元『正法眼蔵』における「真理」への問い」「憲法第 9 条改正問題—平和を高く掲げるために—」「宣教師と東洋布教」「鬼の正体—鬼物語とその本質—」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	山崎ゼミでは、思想だけにとどまらない哲学を学ぶことができます。読書や考えることが好きな方、宗教に興味がある方、ぜひ 6410 へ足を運んでみてください (3 年ゼミ生より)。



担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	<a href="mailto:yamashu@shonan.bunkyo.ac.jp">yamashu@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6209
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】 地域調査演習、景観と風景のまちづくり、外国語文献研究 【秋学期】 市民の環境貢献、環境コミュニケーション論、国際化・情報化時代の社会学、統計調査の基礎
研究室を訪問できる時間帯	火曜（昼休み）、金曜（昼休み）など （詳細は研究室に掲示します）
ゼミのテーマ	市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～
ゼミの内容・メッセージ	社会問題としての環境問題の解決案などを提案しつつ、これからの社会を構想することがゼミの共通テーマです。市民の地域活動と地域形成（参加と決定を含むまちづくり）、環境・市民教育、企業の社会的貢献を課題にとりあげ、日本や国際社会の諸問題、身近な生活や文化の崩壊といった実生活に関わる領域など、さまざまな検討をおこなっていきます。これらのポイントを、社会学理論を用い、ゼミ参加者と考えていきたいと思えます。可能なかぎり現地調査も交えて確認し、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口をみつけるゼミです。まずは、なぜあるできごとが問題と考えられるのかという話題からスタートします。そして、これからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に3回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席としないというルールにしています。また参加者は、（研究）プロジェクトチームに入ってもらいます。このチームは3・4年合同で編成し、卒業研究にむけた具体的な準備をするものです。月の最終週をこの時間とし、年に数回のペースで報告会を開きます。合宿の他、地域社会調査や実習、海外研修（希望者のみ）、他ゼミ（他大学）との交流を行うなど、現地体験の機会も作ります。
留意事項 （Requirement など）	4月に全員で年間方針を決めます。この方針にしたがってもらいます（夏合宿、他大学との交流は、原則、全員参加です）。
ゼミ履修に望ましい科目	とくに定めません。
募集人数の上限	14名（学外での研究活動を実施する予定があるためです。）
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を連絡します。 研究室のドアにも掲示するので、よく確認して下さい。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時は個別に連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。
所属ゼミ生（先輩）からの 一言	やる時はやる、オンオフがしっかりしているゼミ。基本、生徒主体で進めていく、自分を高めるゼミ。市民討議会やローカルファースト研究会など、普通の大学生ではできない経験が出来るゼミ。しっかりした勉強が多いゼミ。雰囲気楽しいゼミ。四年生と三年生の溝が無いゼミ。

担当者名	山脇 千賀子 (やまわき ちかこ)
e-mail アドレス	chica@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6210
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	国際学入門 地域研究 (中南米) 国際学研究 A 国際理解とコミュニケーション 開発教育論
研究室を訪問できる時間帯	月・木 (昼休み) @6210 ゼミ訪問は木曜 (4 限) @6303 木曜 (5 限) @6210
ゼミのテーマ	人間の視点からグローバリゼーションにむきあうこと —3.11 以降の多文化共生の可能性—
ゼミの内容・メッセージ	日本で生活することは何を意味するのか。3.11 以降、私たちはこの問題に向き合わざるを得なくなったはずですが、現代社会が抱える様々な問題が噴出している日本を相対化する必要があります。その際、人間の視点からグローバリゼーションを捉えなおすことを、ゼミの目標にします。ここでいうグローバリゼーションは、近年の現象に限らず、人・モノ・情報・文化などが地球上で行きかうようになったことを指します。世界レベルで起きている人間の尊厳にかかわる問題—差別・格差・闘争など—を分析する眼を磨き、人間として「世界」に向き合う準備を、ゼミを通してやっていきたいと思えます。異なる価値観や文化をもつ人間によって構成されている世界において、私たちにできることを考えたいと思えます。HOP を初めとした学内外の関連するボランティア活動などの参加者は大歓迎です。
ゼミの進め方	3 年時には、基本的には、テキストの購読・担当者による要約・問題提起・ゼミ参加者による討論を中心に進めます。なによりも、大学という場におけるコミュニケーションの「作法」を学ぶことが目標です。夏休みには研究テーマを設定したゼミ合宿を行います。行き先はゼミ生の協議で決まります。4 年時には、卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。大学で学んだことを卒業論文というかたちでまとめ上げることが、ゼミの最終的な目標になります。(卒業論文は製本されて研究室に保管されていますので、お気軽に見に来てください。)
留意事項 (Requirement など)	ゼミ合宿にはできるだけ全員参加が望ましい。
ゼミ履修に望ましい科目	「国際学研究 A」・「国際理解とコミュニケーション」を履修していることが望ましい。
募集人数の上限	12 人
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。)
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れ決定後、新学期が始まる前にテキスト選定の検討会を行う予定です。2 年次の秋学期末に開催予定です。
代表的な卒業論文のテーマ	「国際理解教育」「メディアと若者論」「幸福論」「サッカーとナショナリズム」 「サブカルチャーと越境的対話の可能性」「トランスナショナルな社会運動」
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	ゼミ・メンバーは個性派揃いで、ゼミが貴重な異文化体験です (笑)。4 年ゼミ生は 3 年次夏合宿で沖縄の伝統芸能と工芸の継承問題をテーマにしてフィールドワークを行い、10 月には沖縄・名桜大学菅野ゼミとの合同ゼミで成果をプレゼンしました。日本と世界の間を交流から考えています。(4 年ゼミ生の声) 3 年ゼミ生の夏合宿は長崎でのグループワークの予定です。平和・観光・宗教と多文化共生をテーマにしています。3 年ゼミ生も個性派揃いです (笑)。

担当者名	横川 潤(よこかわ じゅん)
e-mail アドレス	jun-y@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6413
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4,5 限 3211 教室
担当科目	【春学期】国際観光とマーケティング、フードサービス特別講座 【秋学期】飲食店企画論、国際食文化論
研究室を訪問できる時間帯	昼休み(月・水・木) ゼミ見学希望者は木曜日 4,5 限 3211 教室(予約不要)
ゼミのテーマ	観光ホスピタリティ、食のマーケティング(経営者に対する企画プレゼンテーション)
ゼミの内容・メッセージ	企業の経営者(または自治体の首長)に対して、本社(または庁舎)に赴いて研究発表の成果をプレゼンテーションします。今まで(株)ローソン(株)吉野家(株)すかいらーく(株)ヴィアホールディングス(株)めいらく等の企業、茅ヶ崎市、長野県売木村等の自治体に対して行い、プレゼンのいくつかは現実に商品化され、メディアでも大きく取り上げられました。その成果は就活でも活かされ、ANA、JAL スカイ、星野リゾート、HIS、JTB、日通旅行、阪急交通社、JR 東日本、スターバックス、セブンイレブン(本社総合職)、グリーンハウス(本社総合職)、プリンスホテル、ブライダル関連、コンサルティング会社など、観光ホスピタリティ 企業や有名一般企業などの内定・就職に結実しています。
ゼミの進め方	【研究の流れ】オリエンテーション→プロジェクトの決定→学会参加→企業調査→ニーズ分析→競争分析→プレゼン準備→プレゼン本番→反省会とフィードバック→卒論作成・完成→学会発表(予定) 【研修旅行(3 年秋学期)】京都。高級料亭から庶民的な市場までを訪ね、日本料理の本場でその精髓を学びます 【卒業旅行(卒業前)】ニューヨーク。アメリカの人気テレビ番組「ゴシップ・ガールズ」でも登場する有名レストランや Dean&DeLuca 本店などを視察し、研究の総まとめとします。
留意事項 (Requirement など)	強い責任感を持って、真面目にグループワークに打ち込めること。
ゼミ履修に望ましい科目	なるべく横川担当の科目を履修して下さい。
募集人数の上限	14 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	受け入れが決定した時点で全員の顔合わせを行い、その場で指示します。
代表的な卒業論文のテーマ	マーケティング分析と戦略的インプリケーション
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	横川ゼミは活気に溢れていて、分け隔てなく誰とも仲よくなれ、根はまじめな子が集まったゼミで、やるときはきちんとやるゼミです。企業と連携して新たな商品、サービスを提案して世の中に発信することができます。それに向けて毎週グループごとに研究プレゼンを行っています。そのほかにも学会や食事会、ゼミ旅行、企業訪問などもあります。就職先は必ずしも食に関係なく、個人の希望する先に内定(トラベル、ホテル、ブライダル、エアラインなど)をもらっています。卒業旅行はニューヨーク(*^▽^*) 仲よく、楽しく、何かをやり遂げたいと思っているそこの君!ぴったりなゼミがここにある ¥(^o^)/

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	<a href="mailto:watanabe@shonan.bunkyo.ac.jp">watanabe@shonan.bunkyo.ac.jp</a>
研究室	6305
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	国際協力論、紛争と国際協力、地域研究 (東南アジア)、文化人類学、農村社会開発論、フィールド調査法演習 (大学院)、開発人類学 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木 (昼休み) @6305 ゼミ訪問は木曜 (4~5 限) @6305
ゼミのテーマ	「文化人類学から現代社会の課題を考える」 キーワード: 格差、社会的排除、貧困
ゼミの内容・メッセージ	開発協力やまちおこしを含め、他者とかかわる際に、その地域や組織、人々について学ばなければ始まりません。本ゼミでは、学びの手法として、文化人類学をベースに、個人、地域、歴史の視点を大事にします。開発協力だけではなく、政治や経済、自然現象などさまざまな出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。また、個人はさまざまな制約のなか、何を大切にし、どのように生き抜いているのでしょうか。 本ゼミでは、一つの答えや解決策を見つけることを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析することに重点を置きます。なお、テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知を深めていく学びの空間をつくっていきたくと考えます。
ゼミの進め方	3 年次: 春学期は、基本的には、テキストの講読・担当者による要約・問題提起・ゼミ履修者による討論を行います。秋学期は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究発表および議論を中心とします。1 年をつうじ、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。 4 年次: 卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。各自のテーマと内容について討論形式で進めていきます。10月に卒論合宿を行い、互いを励ましつつそれぞれ一つの課題について取り組みます。
留意事項 (Requirement など)	これまで3年次夏休みに、任意参加の海外フィールドワーク研修をフィリピンで実施してきました。実施の有無や内容について一緒に検討してください。本年度は9月1日~10日に「幸せとは何か」をテーマに子どもの保護施設、スラム地域、社会的企業、小学校、宗教マイノリティにて聞き取りをしました。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」、「国際協力論」、「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部の関連科目を履修していることが望ましいです。
募集人数の上限	10 人
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。) 希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているかどうか、周囲と協調して活動を進められるかがポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、年度が変わる前に、顔合わせと今後のゼミの進行について打ち合わせを行います。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	スリランカにおける内発的発展、出産をめぐる現代女性の人類学、捕鯨反対運動と地域文化の展開、食糧安全保障と日本の取り組み、BOP ビジネスの可能性、野球バットと環境問題、相撲の国際化
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	少人数のため、アットホームなゼミで、発言も多く、みんなで仲良くやっています。また自分のやりたいこと、好きなことを学べるゼミです! (4年生)

担当者名	X (観光マーケティング)
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	
研究室を訪問できる時間帯	2017年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科の小島までお願いします
ゼミのテーマ	観光マーケティングの実践
ゼミの内容・メッセージ	<p>マーケティングは「顧客」を創造するために、そのニーズを発見し、価値を提供します。観光分野においてもマーケティングは重要です。本ゼミでは、「観光マーケティングの実践」をテーマに、調査を通じたデータ分析に基づき観光客のニーズを発見し、戦略に役立てることを考えます。まず、観光関連統計やアンケート調査等のデータ分析手法を学びます。その後、それらの手法を実際に各自の研究に活用することで、マーケティングの「実践」に取り組みます。調査対象は国際観光から地域づくり、企業活動などさまざまです。分析では、Excel® (以下、エクセル) を使用する予定です。</p> <p>もっとも大切なことは、「小さなことでも疑問や不満を持ち、それを追究したい」という姿勢です。そのため、好奇心旺盛な学生を歓迎します。</p> <p>みなさんは、本ゼミの一期生です。一緒にゼミを作っていきましょう。ゼミに関する要望・提案は、いつでも歓迎します。</p>
ゼミの進め方	<p><b>【3年次】</b>春学期は、マーケティングの基礎理論とその活用について、グループワークを通じて学びます。秋学期は、卒業論文を念頭に、各自の関心を研究テーマにし、マーケティングの手法により研究します。なお、春・秋学期ともに、研究内容をゼミで発表し、議論をします。春休みの課題は、卒業論文の計画書を作成することです。</p> <p><b>【4年次】</b>春学期は、卒論の計画書に基づき、卒論の「リサーチ・クエスチョン」を決定します。夏休み以降は、卒業論文の執筆を指導します。</p> <p>※ゼミ合宿、懇親会の開催はゼミ生に一任します。</p>
留意事項 (Requirement など)	エクセルを使用する予定のため、エクセルに関心のある学生にお勧めします。
ゼミ履修に望ましい科目	「観光マーケティング論」、「消費者行動論」を受講することを勧めます。
募集人数の上限	15名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	教育支援課より連絡を行います。
ゼミ受入決定者への指示	事前オリエンテーション等を実施する場合は、別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	